

がん研有明の会 会報

# 有明の風

第65号

2025年5月10日発行



カルガモ親子

## 先進がん治療開発センターの ご紹介



2023年4月入職の石崎秀信と申します。同年10月よりセンター長を拝命致しました。先進がん治療開発センターは治験や臨床研究を支援する組織になります。私自身はもともと消化器外科でしたが、大学院と留学先でがん免疫療法の基礎研究と前臨床試験を学び、その実用化を目指して仲間とベンチャー企業を設立し、5年間の代表取締役社長と2年間の取締役会長の職を経てリタイヤした後に当センターに着任致しました。佐野武病院長そして丸山大先生が牽引してこられたこの組織を如何に大きく成長させられるか、如何に多くの新規治療を患者さんに届けられるか、が私たちの使命と考えています。

日本は今、医薬品開発において「ドラッグ・ラグ／ドラッグ・ロス」と呼ばれる深刻な課題を抱えています。米国・欧州に比べて薬事承認が大きく遅れたり（承認時期のラグ）、そもそも日本で薬剤開発が行われない（開発機会のロス）、といった問題が発生しています。この問題には薬事規制や薬価制度など様々な要因が絡み合っていますが、私たちがん研有明病院のような治験実施施設にも原因があります。グローバル治験における日本の治験実施施設の課題をまとめると、①グローバル早期試験（Phase 1）に参加できていない、②グローバル治験におけるアクティビティが低い、③治験プロセスの非効率性（英語力も含む）、

がん研有明病院 先進がん治療開発センター・センター長  
同産官学連携部・部長 石崎 秀信

④治験コストが高い、⑤海外ベンチャー企業へのアクセス不足、などに集約されます。私たち現場の努力と、製薬企業・ベンチャー企業への情報発信が求められています。

私が着任してから当センターで取り組んできたことは3つあります。(1)仲間を作り組織をまとめる、(2)自分たちの強みを整理すること、そして(3)企業との連携を強化し患者さんに還元すること、です。(1)ではとにかく全職員と話しました。そして私たちのビジョンを定め、組織を分析し戦略を立て、中期計画と短期計画を策定し、その実践と振り返りを図りました。(2)で整理できた私たちの強みは、国内トップレベルのグローバルPhase 1のアクティビティがあること、統合がん臨床データベースという独自のシステムによって治験の効率化が期待できること、そして日本で最も多くの患者さんにお越し頂き期待されている病院であること、に尽きます。このような強みを最大化し、(3)の企業との積極的な連携に取り組んだ結果、2022年度まで3件であったパートナーシップ数が2024年度は9件に増加し、年間の新規治験契約数は平均70～80件／年ほどで推移していた件数が2024年度は115件／年と飛躍的に増加しました。私たちはこうした連携を通して企業の期待に応え、患者さんに新薬を還元していくエコシステムを構築しながら、日本の医薬品開発の発展に貢献していきたいと考えています。引き続きどうぞ宜しくお願い致します。

## がん研有明友の会 新旧会長の交代について

新緑の季節となりました。地球温暖化のためでしょうか、個人的な考えによるものでしょうか、感じ方のせいなのかもわかりませんが、年々春秋の過ごしやすい時期が短くなり、熱い夏の期間が長くなっているような気がいたします。近年、熱中症で倒れる人も多くなっているようですが、皆様には十分お体にお気を付け下さいます様に。

さて、標題にあげましたとおり、年度末も近くなった令和7年1月24日、理事会で、これまで12年に亘り会長をお務め下さった渡邊明治会長から、「会長職が永くなり、体調不良のため、会長職を辞退したい」との意向が示されました。幸い、永く会員として、本会の活動に深く関心をお持ちの(株)古賀オール会長古畑勝茂氏に後任の会長職をお引き受けいただけすることになりました。ついては、年度の変わった去る4月4日、理事会を開催し、今年度の総会に向けた会活動について話し合い、古畑様にご出席いただき、改めて新会長就任のお願いをいたしました。

来る6月27日には総会を開催し、ここで皆様にご承認をいただき、新旧会長のご挨拶をいただく予定です。会員の皆様には引き続き会活動へご支援ご協力を賜ります様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

### ボランティア支援室より

### 「御 礼」

トータルケアセンター 患者・家族支援部 ボランティア支援室 室長

ボランティアコーディネーター／社会福祉士 柴田 かおり

有明友の会の皆さん、いつもがん研ボランティアの活動を温かく見守っていただき、ありがとうございます。皆さまからのご支援を機にスタートしたホスピタルストリートの季節飾りは、毎月様々な季節の飾付を実施することが叶いました。沢山の方にご覧いただき、患者さんやご家族からはホスピタルストリートの飾付に感謝のご意見が多数寄せられ、私ども大変励みになっております。本当にありがとうございます。

2024年は病院開設90周年、公式キャラクターかにこちゃん誕生10周年の記念の年となりましたので、今回のご寄付では直接患者さんの元へお届けできるような形で使わせていただきたいと、入院患者さんへのクリスマスプレゼントを購入させていただきました。コロナ以前のクリスマスはサンタクロースになった先生方やボランティアのメンバーが入院患者さんお一人ずつにプレゼントをお渡ししていましたが、ここ数年は感染対策のため各病室を訪問することができず、ボランティアの手作りカードに病院長と主治医や担当看護師がメッセージを添えて病棟スタッフから患者さんにお渡しするだけとなっていました。ですが、昨年のクリスマスはカードと共にかわいいハンドタオルのプレゼントもお届けすることができました。「素晴らしいプレゼントとカードに感激です！」「こんな病院は初めてです！」と患者さんはもちろんのこと病棟スタッフからも大好評となりました。

ボランティア活動は目に見えにくいことも多く、継続していくことは決して簡単なことではありませんが、「陰ながら・さりげなく・心を込めて」という気持ちを忘れずに、患者さんご家族、そして職員の笑顔に繋がるような活動を実施して参りますので、今後ともどうかお力添えを宜しくお願いいたします。



入院患者さんへのクリスマスプレゼント：クリスマス柄のハンドタオル

# 抗がん薬の開発とがんのゲノム医療 ①

がん研有明病院 顧問 ゲノム診療部部長 高橋 俊二

私はがん研において腫瘍内科医としていろいろな抗がん薬の開発に関わってきました。抗がん薬の開発とゲノム診療について、わかりやすく解説したいと思います。皆様のご参考に少しでもなればと思います。よろしくお願ひいたします。

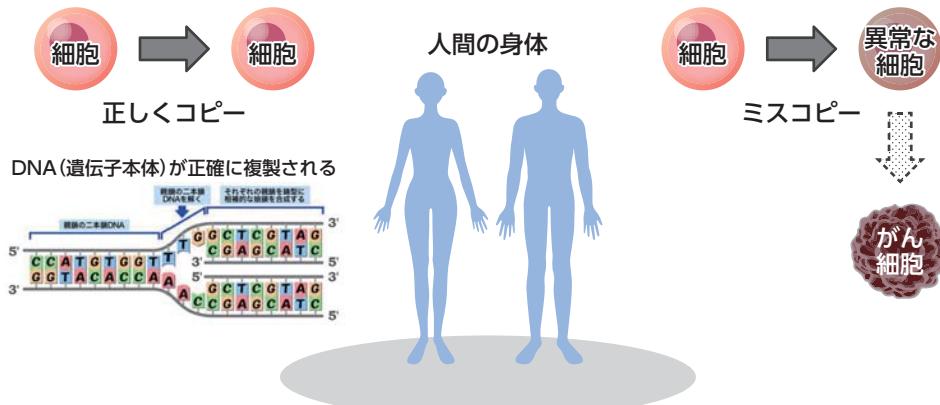


まず、がん化のメカニズムと遺伝子異常について簡単に記載します。(図1) がんは基本的には遺伝子の異常によって起こります。遺伝子の本体はDNAで、4種類の塩基(GCAT)がペアになった2重らせんが延々と伸びたもので、塩基の並びが遺伝情報です。細胞が分裂し増えていく時にそのDNAが正確に複製されていくのですが、紫外線、変異原物質、炎症などいろいろな影響でどうしてもミスコピーが起こります。そのため遺伝子の異常が起こって、異常な細胞が出てくる。それが積み重なると、がん細胞になるわけですね。そのような異常細胞の殆どは死滅し、あるいは免疫機能で排除されますが、排除されなかった場合、がん細胞となって無秩序に増殖するというのが基本的な考え方です。

では、がん細胞における遺伝子異常はどのくらいあるのかということですが、がん種により遺伝子変異の頻度が低いものから高いものまであります。肺がんや悪性黒色腫などが高いもので、肉腫、血液腫瘍は比較的少ないといわれていますが、100万塩基(メガベース, MB)当たり0.01~100の間といわれています。1細胞あたりのDNAは約6000MBですので、実際の遺伝子変異は60から場合によっては60万個ぐらいあることになります。ただ、この変異が全てがん化に関わるかというとそうではなく、がん化を起こす重要な遺伝子異常は1細胞で2~10個ぐらいであり、幾つかのがん化を起こしやすい遺伝子異常が積み重なることによって発がんが起こると考えられています。

(次号66号に続く)

図1 がんの発生: 遺伝子異常によって起こる



異常な細胞は、死んだり免疫機能により排除されるが、  
排除されなかった場合は、がん細胞になり無秩序に増殖

# がん研有明病院リンパケアルームとリンパ浮腫治療について

がん研有明病院 形成外科 副医長 今井 洋文



我が国における二次性リンパ浮腫の発症率は、乳癌や子宮癌など癌術後（リンパ節郭清を含む）で約30%で、当院のリンパケアルームでは年間約4900例のリンパ浮腫患者を診療しております。乳腺外科、婦人科、泌尿器科、整形外科など複数の科から紹介を受けており、保存的治療から手術的治療と治療後のケアまで行っております。保存的治療ではドレナージ療法やストッキングとスリーブを用いた圧迫療法の指導（左図）などを行っており、四肢の周径測定やインピーダンスによる体内水分量の測定を用いて客観的に浮腫状態を評価しております。手術的治療では浮腫に罹患した四肢でリンパ管を静脈に吻合する Lymphatic venous anastomosis (LVA) によりリンパ液を静脈を介した還流路に改変し、浮腫の改善を図っております（左図）。リンパ浮腫発症の初期段階で早期介入することで重症化を防ぎ日常生活の活動度を保つことが重要とされております。リンパ浮腫と診断されることなく重症化してしまう患者が少なうない中で、当院では各科医療者の協力のもと早期診断・早期介入を行っており、リンパケアルーム設立以降重症リンパ浮腫の発生数は減少傾向となっております。

リンパ浮腫の重症化に伴い問題となるのが蜂窩織炎の発症です。リンパ浮腫患者における蜂窩織炎の発症率は約10%とされていますが、一部の患者では反復的に発症することがあり、発症時期が予測困難であることから旅行を控えるなど日常生活に支障を来す場合があります。蜂窩織炎を起こす背景として免疫の影響が過去の研究から示唆されており、筆者はリンパ浮腫患者と健常者の血液からT細胞を抽出して解析しました。人間の血液中には様々なT細胞が存在しておりその数は膨大で約 $10^{18}$ 種類あると推定されています。このように非常に大きな多様性を持つことでT細胞は病原性を有すると考えられるさまざまな脅威（ウィルスなど）を認識して応答します。リンパ浮腫患者の血液中におけるT細胞の多様性は、健常者と比較して有意に低下していることが明らかとなりました。しかし適切な浮腫治療を行うことでT細胞の性状は健常者の状態へと近くなります。リンパ浮腫治療前と比較して、治療後に蜂窩織炎の発症頻度が有意に低下することが報告されており、これは浮腫治療を通じてリンパ浮腫患者の免疫系が賦活化される可能性を示唆しています。したがってリンパ浮腫に対する治療は単に浮腫の軽減にとどまらず、免疫学的観点からも重要であると考えられます。

リンパ浮腫を発症すると、禁止事項や避けるべきことなど生活に制限が出るというイメージが強いですが、基本的にはやってはいけないことはありません。生活スタイルを調整しながらケアをしていくことが大切です。私たちのスローガンは「リンパ浮腫があっても安心して暮らせる」ということを掲げています。がん治療の中、リンパ浮腫ケアが必要となる方もいます。患者さんが安心して生活を送れるよう、ケア負担を最小限にできるよう支援をしていくことがリンパケアルームの使命であり、研究から治療を通して、また多職種の医療者と連携してリンパ浮腫で困っている方に貢献できればと思っています。

# 「食べる支援」について

がん研有明病院 摂食嚥下障害看護認定看護師 磯野 香織

初めまして、摂食嚥下障害看護認定看護師の磯野香織です。

新緑が美しい季節となりました。季節やお祝い事で食べる、行事食がありますが、皆様はどのようなものを食べて、春を感じましたか？「食べる」ことは栄養補給だけでなく、日常のコミュニケーションの場としても重要です。4月にはお花見弁当やお花見団子、5月5日は柏餅を食べる風習があり、食事を通して季節を感じながらコミュニケーションを図ることも多いのではないでしょうか。



私たちが普段何気なく行っている「もぐもぐゴックン」という行為を、「摂食嚥下」といいます。これは、様々な身体的機能が複雑に絡み合うことで行われています。どこか一部でも障害を受けると、うまく噛むことや飲み込むことができずに、栄養不良や脱水、誤嚥性肺炎につながるリスクが高くなります。私は、噛むことや飲み込むことが困難な方に対して、「食べる支援」を行っています。摂食嚥下障害は、神経系の病気や、くちやのどなどの病気が主ですが、最近では、加齢による全身の筋肉量の減少や筋力低下でも起こることが注目されています。

そこで、少しでも長く「食べる」ことを続けられるように、日頃から2つのことを意識して行いましょう。

## 1 歯磨き

朝・昼・夕・寝る前の1日4回行います。

口腔内が汚染されることで、不快感や口の渴きにつながります。味覚は舌で感じますが、舌の上に苔のようなものがあると味を感じにくくなり、食欲が低下します。歯は歯ブラシでブラッシングし、舌は介護用品売り場にあるスポンジブラシや市販の舌ブラシで撫でるようにして清潔を保ちましょう。口腔ケアを行うことで、口の清潔だけでなく、全身状態や生活の質も向上すると言われています。

## 2 運動

飲み込む力は、全身の筋力と大きく関係します。気道に入りかけた食べ物を吐き出すために咳払いをするととも、筋力が必要になります。安全に食べ続けるためには、日頃から散歩などを行い、筋力低下を防ぎましょう。ご飯を作りながら、動画を見ながら、読書をしながら、かかとを上げ下げするなど、何かをしながら体を動かす、「ながら運動」もおすすめです。

## 選べるやわらか食事

がん研有明病院 栄養管理部 入退院

病院の給食は症状にあわせて様々な種類があります



### ●おかず

やわらかい

かたい

	ペースト食	ソフト食	軟菜食	全粥食
形態	スプーンですくえる程度のやわらかさ	舌と上顎で潰せる程度の硬さ（ムース・ゼリー形態）	茹でる・煮る・蒸すを基本に軟らかく調理。	普通食の硬さ 主食は全粥以外へと変更可能
特徴など	軟菜食のおかずを汁などと一緒にミキサーにかけている	食事をミキサーにかけムース状に再形成	硬い食品や揚げ物は提供されない ※一口大に刻む対応が可能	揚げ物、牛蒡や筍等の硬い食品は提供されない
料理例				
内容	全粥ミキサー	全粥	全粥	全粥
エネルギー ※主食により変動あり	1500Kcal	1400Kcal	1500Kcal	1500Kcal

当院で提供している嚥下食

2023年から摂食嚥下支援チームが活動を開始しました。食事や水分などを、うまく食べられない・飲み込めない患者さんに対して、食事時の姿勢調整や食事形態の調整などを、医師・歯科医師・言語聴覚士・管理栄養士・看護師など多職種で検討し支援を行っています。食べることでお困りのことがありましたら、お気軽にお声掛けください。

# 寄稿

この度の寄稿欄記事は公益財団法人日本対がん協会会長、国立がん研究センター名誉総長垣添忠生先生からです。日本対がん協会は朝日新聞の強力なバックアップのもとに設立された、全国に支部を置き組織的に対がん活動を行っている旧い歴史を持つ団体です。秋の「がん征圧月間」中の「がん征圧全国大会」開催、「日本対がん協会賞」、その特別賞である「朝日がん大賞」による表彰、電話によるがん無料相談、ピンクリボンフェスティバル活動など、幅広く活発な活動を展開、実施されています。

## Dr. カキゾエ 歩く処方箋 —みちのく潮風トレイル1000km を往く—

私は1975年から国立がんセンター（現国立がん研究センター）に32年間勤務した。前半は泌尿器科医として、後半10年は中央病院長、最終5年間は総長として、中央、東病院、研究所、運営局全体の責任者を務め、2007年65歳で定年退職した。

若い頃は早朝と夜、国立がんセンター研究所で、杉村隆先生に師事して膀胱がんの基礎研究にも没頭した。早朝、ラットの回診をし、以後病院で手術や外来に明け暮れ、夜、研究所で深夜まで研究した。現在なら働き方改革でこんな生活は認められないが、当時の私は若く、自分の意志で仕事をしたので、「世の中にこんな面白い世界があるのか！」と夢中だった。



私自身、50代で大腸がん、60代で腎臓がんを経験し、いづれも早期がんなので手術で完治した。私の妻は甲状腺がんと肺腺がんは手術で治したが、僅か4ミリで発見した三つ目の小細胞肺がんを治すことができず亡くなった。

つまり、私はがん医療に30年以上関わり、がんの基礎研究にも15年ほど没頭した。また自身がん経験者であり、がん患者の家族、遺族もある。

2018年2月から7月にかけて、私は全がん協加盟32施設、九州がんセンターから北海道がんセンターまでを一筆書きのように歩いた。「がんサバイバーを支援しよう」という幟を掲げて約2500kmを歩いた。

2020年の秋頃、81歳になった私は「最後に歩くとしたらどこだろうか？」とほんやり考えていた。そこにドキュメンタリー映画監督の野澤和之さんから連絡が入った。「先生の著書を読んで感動した。ドキュメンタリー映画を撮りたい。できれば歩いてほしい」と。

だとしたら、かねてほんやり考えていた「みちのく潮風トレイル1000km」だ。ちょうど2023年は東日本大震災（3-11）から節目の12年になる。

津波で足をすくわれた人、がんで足をすくわれた人は基本的に同じではないか？人生の途上で想いかけない災厄に出会った人は、如何にして立ち直るか？「がんサバイバーを支援しよう。3-11を忘れない」という幟を掲げて再び歩き、トレイル上で会うこうした人々から人間の強靭さ、レジリエンスを私自身勉強させてもらいたい、と考えた。

2023年3月27日、トレイルの北の基点、青森県八戸市からスタートして6月22日まで、4回に分けて歩いた。全行程を野澤監督、カメラマン2人、調整役の4人が同行して1000時間に及ぶ撮影をした。

映画は2時間に縮められ、音楽をつけて完成した。公開は本年8月を予定している。

4回に分けた旅の行程を縦糸に、高くそびえる防潮堤のこと、歩くことの意味、美しい三陸の景観などを横糸として、「希望」という美しい布を織り上げたつもりである。

この歳で俳優デビューである。人生、何が起こるか分からない。



雲が美しい（その為、再歩行させられました）



## ～未来の健康を守るために～

DAC ホールディングス 人事部 石森 あみ

近年、「健康経営」という言葉を耳にする機会が増えています。DAC グループでは、従業員の安全と健康の確保を企業活動の基盤と考え、「社員の健康」が会社の成長にとって不可欠であると考えています。

自分自身の人生を豊かにするためには、何よりも「健康」であることが大切です。「今、元気だから大丈夫」と考えるのではなく、未来も健康でいられるよう、身体の健康、こころの健康、環境の健康、そして社会的健康を基盤とし、充実した人生を送るためのさまざまな取り組みを実施しています。

たとえば、定期健康診断の充実に加え、ストレスチェックやメンタルヘルスの相談窓口の設置、健康セミナーの開催、メンタルヘルスマネジメント検定の受験促進などを行っています。また、健康管理のための特別休暇制度の導入や、介護に関するセミナーの実施など、職場環境の整備にも力を入れ、社員が安心して働き続けられる環境づくりを推進しています。

当社の社員数は約1,000名で、平均年齢は33歳と若手が多いのが特徴です。健康診断の受診率は98%と高く、多くの社員が自身の健康に关心を持っています。この高い受診率を維持することで、病気の早期発見・予防に努めています。さらに、福利厚生の一環として、がん研有明友の会に会社が加入しており、社員も検査を受けられる環境を整えています。

こうした取り組みを通じて、社員が長く活躍できる環境を整備しています。

身体や心が健康でいられることが、長く活躍するための秘訣です。会社の健康支援制度を上手に活用しながら、無理なく楽しく健康管理を続けていきたいと考えております。



## 麻婆豆腐

### ◆ 材料 (2人前)

豆腐……………1丁  
(300-400g 程度)  
豚ひき肉……………50g  
ニンニク……………1かけ  
(チューブでも可)  
ショウガ……………少量  
ネギ(みじん切り)……………少量  
油……………適量

◆ 調味料  
醤油……………大さじ1.5  
みそ……………小さじ1  
砂糖……………小さじ1.5  
酒……………小さじ1  
鶏ガラ(顆粒)……………小さじ0.5  
水……………0.5カップ  
片栗粉……………小さじ0.5  
水……………大さじ1  
ごま油……………適量

### ◆ 作り方

- 1 ねぎ・ニンニクを刻んでおく
- 2 ★の調味料を合わせて溶かしておく
- 3 鍋に油をしき、ねぎ・ニンニク、豚ひき肉を入れて炒める
- 4 ②で合わせた調味料を入れて煮立たせる
- 5 水溶き片栗粉、ごま油を入れた後、お好みのサイズに切った豆腐を入れひと煮立ちさせ、とろみがついたら完成

## がん研有明病院 栄養管理部

### 一口メモ

麻婆豆腐は中国の四川省で生まれた料理です。四川料理に辛いものが多いのは、四川省は冬の寒さが厳しいので、体を温めるためだといわれています。辛みの好きな方は豆板醤を入れるとピリッと辛くおいしくいただけます。本格的な中華料理がお好きな方は花椒(ホアジャオ)を使用するとお店の味に近づきます。辛い物が苦手な場合は入れなくても大丈夫です。



## がん研有明友の会 現在の状況

この3月、東京では都心で3回の夏日を観測しました。寒暖の差も大きく体調を崩された方もおられるのではないかでしょうか。乾燥が続き各地（岩手県大船戸・岡山・愛媛・宮崎）で山火事が発生、相次ぐ多くの被害が出ました。世界でも山火事が多発、また止むことない戦火が続き、経済的にもアメリカ大統領トランプ旋風が吹き荒れ、これからどうなることか、平穏な日が来てほしい、ただそう願うばかりです。

会員皆様の中で、友の会理事としてご支援ご協力いただける方は、お申し出をいただきたくお願ひ申し上げます。

（お問合せ先：有明友の会事務局 03-3570-0561）

## 有明の風 表紙の写真について

蚕糸の森公園は農林水産省の元蚕糸試験場で、1980年に筑波に移転した後、小学校と一体化した「学校防災公園」です。その池に12羽のカルガモが孵化し、親鳥の後を追いかけ、池を泳いでいる元気な姿を撮影した一コマです。

がん研有明友の会 理事 瀧澤

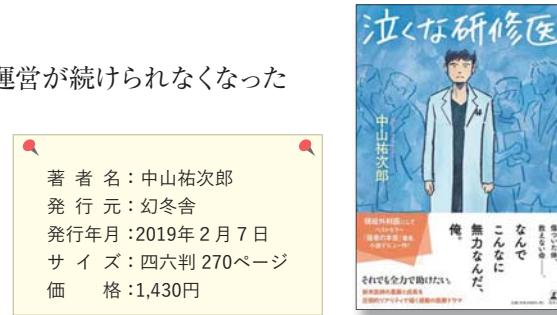
## この一冊

### 泣くな研修医

今回のご紹介は直接がんに関する著作ではありませんが、医師であり作家であられる著者の7作に及ぶシリーズものです。第一作は4年前に上梓されテレビ化もされているようです。がん病院勤めもされた著者が、作家として小説を書く気持ちを持たれ、医師としての立場から新任医師の現場に就いた時の気持ち、新人医師の様子、気持ちを良く書き表しておられます。病院の中にいる人ならわかる、病院外の人にも知っていただきたい、そんな一冊といえます。

当時まだ若い外科医であられた先生は、東日本大震災により運営が続けられなくなったり島病院院長を引き受けられ、同病院存続の道を開かれ耳目を集められました。その先生の心意気、お気持ちが窺い知れる著作です。一気に読み通しました。

ここでは単行本の紹介をいたしますが、文庫本の発行もあり入手可能です。



## 有明友の会 入会のご案内

有明友の会は、がんで命を落とさないようにするために、がんに関する知識を深め、情報を共有し、がんに気をつけよう、がん研究の支援により、進んだ医療が受けられるようにしようということを目的にしております。

その活動は、年4回の会報発行、公開講座の開催などの他、日本で最も歴史のあるがん研究会の事業支援をしており、年会費は5,000円（個人、一口）となっております。多くの皆様のご入会をお待ちしております。

がん研有明友の会会報 発行元・事務局

〒135-8550 東京都江東区有明3-8-31 がん研有明病院内 TEL: 03(3570)0561 FAX: 03(3570)0562  
HP: <http://ariaketomonokai.org> E-mail: [tomonokai@jfcr.or.jp](mailto:tomonokai@jfcr.or.jp)



◀友の会ホームページ